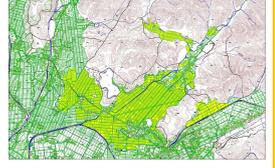


仙北市地域農業再生協議会（秋田県仙北市）

組織の概要

- 米の需給調整、水田における作物の生産振興、担い手の確保・育成など、地域農業に関する様々な取組を一体的に推進するため、平成23年に協議会を設立。
- 協議会（農家戸数1,844戸のうち大豆生産農家56戸）では、大豆を重点的な転作作物と位置付け、産地交付金を活用しながら、収益力向上に向けた取組として、排水対策や追肥等を推奨するなど、水田における収益力の強化を推進。



生産概要

- 仙北市では6割を超える農地で水稻が作付けされている。水田転作作物として、大豆やそばなどが作付けされており、特に平場では大豆の作付けが多い。作付面積：水稻89ha、大豆1.2ha（R2年：梅沢産地）
- 梅沢産地では大豆の作付けが少なかったが、主食用米の需要が減少し、米価も低下している中で、収益力を向上させるために、大豆の作付拡大を推進。
- R2年から基盤整備事業が始まり、大豆の作付面積は、R2年では1.2ha。基盤整備終了ほ場から順次作付を拡大し、R6年には21haの作付けを目指す。

取組のポイント

<需要に応じた生産の取組>

- 本地域で生産している品種「リュウホウ」は、全量JAに出荷され、主に加工用（納豆、味噌、豆腐用）として地元の加工業者等に販売。取引価格も安定しており、実需者から増産が求められている。

<団地化による作業効率の向上>

- 団地化推進検討会を開催した結果、4ha以上の団地が形成され、ほ場作業効率が向上。今後、大豆の作付拡大とともにブロックローテーションを積極的に導入し、生産性の向上を図る。

<大豆300A技術による排水対策>

- 耕うん同時畝立て播種機を導入し、耕起・整地・播種を一工程で行うことが可能に。10aあたりの作業時間の短縮につながり、規模拡大に繋がるのが期待。土壌の畝立てにより排水性が向上し湿害が軽減されるほか、碎土率が向上することで、単収の向上が期待。

<土壌診断に基づく土づくり>

- 基盤整備後のため、土壌の化学性・物理性の改善が必須。土壌診断を実施することで、必要な資材を効果的に施用し、基盤整備後の水田転換畑にあっても目標収量の確保が期待。

取組成果

<大豆生産の高位安定化を実現>

■ 基盤整備されたほ場の団地化を実施

団地化面積 0ha（R2）→ 4.7ha（R3）→ R5目標 10ha
団地化率 0%（R2）→ 92.2%（R3）→ R5目標 50%

■ 団地化により作業性が向上し適期作業が可能となった結果、単収が増加

作付面積 1.2ha（R2）→ 5.1ha（R3） R5目標：20ha
単収 105kg/10a（R2）→ 243kg/10a（R3）
（地域単収：124kg/10a）

